

新出サンスクリット語写本断簡に見られる諸文献

生 野 昌 範

1. アメリカ合衆国ヴァージニア州のプライベート・コレクションは *Dīrghāgama* の新出サンスクリット語写本の内の大部分を保有することで知られているが、そのコレクションの内の一部の断簡を筆者は 2011 年 10 月から研究している。研究を開始した当初は筆者の担当している断簡全てが *Vinayavibhaṅga* に属すると考えられていたが、研究を進めていくうちにそれらの断簡の中に *Vinayavibhaṅga* 以外にも *Vinaya-uttaragrantha* 内の *Upāliparipṛcchā* や *Samyuktāgama*, *Dīrghāgama* の *Apannakasūtra* の断簡も混在することが明らかとなった¹⁾。

これらの写本断簡の内には複数のフォリオが癒着したままのものもあり、そのことから種々の問題が生じる²⁾。本稿で取り扱う F 22.3 + G 14.4 + G 19.1³⁾ も複数のフォリオが癒着している断簡であり、そのことによって新たな問題を提起する。以下、F 22.3 + G 14.4 + G 19.1 の A 面、B 面を別々に考察する⁴⁾。

2. F 22.3 + G 14.4 + G 19.1 の A 面のローマ字転写は、以下の通りである⁵⁾。

- 1 /// ^(G 14.4) + + + + + .r. + .[y]. + + + + + + + + + + /// ^(G 19.1) .. cam alaṃ grāmaṇīs
tiṣṭha m. + ///
- 2 ^(F 22.3) + + + + + + + + + + + + + + + .. + .. [r]. t. [m]. [t]. + + + + + + + + +
+ + + + + /// ^(G 14.4) + + + [d]. rgharātram nīvrto vaṃcito vipralabdh. [ḥ s]. ///
^(G 19.1) + [m]. dhye samājamadhye pūrvav[a] ///
- 3 ^(F 22.3) + + + + + + .t. [n]. k. [r]m. ṇā + thā s[a]m[ā]ptena samādattena prabhāsāyā
[ṃ]devān. + + + + + + + + + + /// ^(G 14.4) + [h]. [ṃ] bho gautamādyāgreṇa tasmā[t]
pāpak[|o|]āt karmaṇaḥ pra .i .. + /// ^(G 19.1) + .. [h]. grāmaṇī ta u .yate i .[i] ///
- 4 ^(F 22.3) + + + + .[ā]maṇīr bhagavato bhāṣitam abhinandyānu[mo]dyotthāyāsa ○ + + +
+ + + /// ^(G 14.4) .[ā]nam [a]tha yuddhājīvo grām[aṇ]īr yena bh[a]g. vāṃ[s te] + + + + ///
^(G 19.1) + + + .. tā sārddhaṃ saṃm .. ///

- 5 (F 22.3) + + + + ryaikānte niṣanna ekāntaniṣann[o] yuddhājīvo grā ○ + + + + + ///
 (G 14.4) [me] bho gautama : paurāṇānām yuddhājī .. + + + + + ///
- 6 (F 22.3) + [t]. vyāya ○ cchate sa .. + /// (G 14.4)
 ..[o] vyāyacchamāṇaḥ pa[rā] .. nt[i] vyābādh[ati] .. + + + + + ///
- 7 (F 22.3) + .. [ma]ḥ ki ○ m āha al.[m] + /// (G 14.4)
 .. t[am a]rthaṃ pari[p]rā . ī .. va[m] dv[i]r api tṛ a[p]i + + + + + ///
- 8 (F 22.3) + .. uddhājīvaḥ sannaddhaḥ
 samvijitakalāpasam . r. .. i /// (G 14.4) + + + + + .. t [sa] t[a]trots[a]h[a]māno + + + + +
 + + + + + ///
- 9 (F 22.3) .. .[c]. .[t]. .[th]. .. + + + + + .. [am]. s[at]v[ā] h[a]ny[a]nt[ā] v[ā] ..
 [dh]y. ntām vā parājīyantām vā anayena vyasan[a]m āpa[d]y. ///
- 10 (F 22.3) thyāpratipa[t]i[n]. d[ā] .. [he]toḥ kāyasya bhe[dāc] ch. .. [vī]rāṇaṃ
 devānām sabhāgatāyā{[m]}m upapadyate ne[da]m + + + + + ///

このA面は、求那跋陀羅訳『雑阿含經』卷第三十二、第907-908經に相当する⁶⁾。この梵文断簡に対応する漢訳の箇所を以下に提示する。なお、梵文断簡に対応する語句は、梵文断簡の行番号を角括弧付きで左肩に付した上で、太字にして明示する。また、梵文断簡の部分的な復元を注において試みる。

爾時世尊告聚落主。是故我先三問不答。^[1]言。聚落主。且止。莫問此義⁷⁾。聚落主白佛言。瞿曇。我不以瞿曇說故而悲泣也。我自念。昔來云何為彼愚癡不辨不善諸伎兒輩所見^[2]欺誑⁸⁾。言。大眾中⁹⁾作諸伎樂。乃至生歡喜天。我今定思。云何伎兒歌舞嬉戲^[3]生歡喜天¹⁰⁾。瞿曇。我從今日捨彼伎兒惡不善業¹¹⁾。歸佛。歸法。歸比丘僧。佛言。善哉。聚落主。此真實要。爾時遮羅周羅羅^[4]聚落主問佛所說。歡喜隨喜。頂禮佛足。歡喜而去¹²⁾。

(九〇八) 如是我聞。一時佛住王舍城迦蘭陀竹園。爾時戰鬪活聚落主來詣佛所¹³⁾。恭敬問訊。問訊^[5]已。退坐一面。白佛言。瞿曇。我聞。古昔戰鬪活¹⁴⁾耆年宿士作是言。若戰鬪活。身被重鎧。手執利器。將士先鋒。堪能方便。^[6]摧伏怨敵¹⁵⁾。緣此業報。生箭降伏天。於瞿曇法中^[7]其義云何。佛告戰鬪活。且止。莫問此義。如是再三問。亦再三止之¹⁶⁾。猶問不已。佛告聚落主。我今問汝。隨汝意答。聚落主。於意云何。若^[8]戰鬪活。身被甲冑¹⁷⁾。為戰士先鋒。堪能方便。摧伏怨敵。此人豈不先起傷害之心。欲^[9]攝縛枷鎖所刺殺害於彼耶¹⁸⁾。聚落主白佛。如是。世尊。佛告聚落主。為戰鬪活。有三種惡邪。若身若口若意。以此三種^[10]惡邪因緣。身壞命終。得生善趣箭降伏天者。無有是處¹⁹⁾。

梵文断簡の3行目の t(e)na k(a)rm(a)nā (ta)thā samāptena samādattena や9行目の

anayena vyasanam āpādy (antām) など部分的に『雑阿含經』の対応箇所に対応する語句が見られない場合もある。しかしながら、梵文断簡と『雑阿含經』の間で全ての行に関して対応箇所が見出されるので、A 面は『雑阿含經』第907-908 經に属すると考えられる。

3. 次に、B面のローマ字転写は以下の通りである（1-5行目は省略）。

- [illegible]

このB面に対応するのは、*Vinayavibhaṅga* の Naissargikā Pāyattikā 第十八条²⁰⁾ と『雜阿含經』卷第三十二、第911經²¹⁾である。しかし、梵文断簡の6行目と9行目に相当する箇所において両者の間に相違が見られる。

6 行目: (ya)sya kasya ci<t> kalpate rūpikaṃ svīkaroti jātārūpa<m so> 'śramaṇadha
(rmo 'śakyaputrīyadharmo)²²⁾ と復元されうる文の後に dvir api tṛ api te 'haṃ
grāmaṇīr etam (arthaṃ vadāmi)「村長よ、私は君に他ならぬこのことを二度、三度、
言う」とある。これに関して、

Vinayavibhaṅga: gaṇ la la la mñon mtshan can ruñ žin gser bdag gir byed pa de ni dge sbyon gi chos
ma yin žin de ni śākya'i sras kyi chos ma yin pa'i phyir ro || **gron dpon nas khyed la don de** ñid kyi
phyir **lan gn̄is lan gsum gyi bar du** brjod par bya ste²³⁾

『雜阿含經』：若自為己受畜金銀寶物者，非沙門法，非釋種子法，（228b17-18）

である。以上の通り、*Vinavavibhaṅga* は梵文断簡の *dvir api trr api te 'ham grāmaṇīr*

etam に対応する語句を有しているが、『雑阿含経』は有していない。

9行目: (atha Maṇ)i(cūḍako grāmaṇīr bhagavato bhāṣitam abhinandyānumodya bhagavataḥ pād)au śirasā vanditvā utthāyāsanāt prakrān(t)aḥ と復元されうる文の後に ten(a khalu samayenā)yuṣmān Ānando bhagavataḥ (pṛṣṭhataḥ sthito 'bhūd vyajanam grhītvā ca bhagavantam vijayamānaḥ)²⁴⁾「その時に、尊者アーナンダは世尊の背後に立って、団扇を手を持って、世尊をあおいでいた」と復元されることができ、(ā)yuṣmān Ānando という語が主語としてある。これに関して、

Vinayavibhaṅga: de nas groṇ dpon gtsug na nor bus bcom ldan 'das kyi bka' stsal pa la mñon par dga' ba dañ rjes su yi rañ ba byas nas bcom ldan 'das kyi žabs gñis la mgo bos phyag 'tshal te bcom ldan 'das kyi spyān sñā nas soñ ño || de'i tshe na **tshe dañ ldan pa kun dga'** bo bcom ldan 'das kyi snam logs na 'dug par gyur ciñ bsil yab thogs te bcom ldan 'das la g-yob ciñ 'dug go²⁵⁾

『雑阿含経』：摩尼珠髻聚落主聞佛所説，歡喜，作禮而去。爾時世尊知摩尼珠髻聚落主去已，告尊者阿難。（228b24-26）

である。以上の通り、世尊の背後に立っている主語としての (ā)yuṣmān Ānando を *Vinayavibhaṅga* は記述しているが、『雑阿含経』は記していない²⁶⁾。

これらの2点から、B面は、文言に基づく限り、『雑阿含経』第911経よりも²⁷⁾ *Vinayavibhaṅga* の Naissargikā Pāyattikā 第十八条により正確に対応している。

梵文断簡のテキストの比定を確定するためには、癒着したフォリオを分離し、現在では覆い隠されていて見ることができない面を調査する必要があるが、今後フォリオの分離が行なわれる可能性はきわめて低い。よって、現時点では梵文断簡と現存する翻訳文献²⁸⁾の間での文言に基づいてのみ判断する以外に方法がない²⁹⁾。以上のような状況にあるので、フォリオが分離・調査されるまでは、B面は *Vinayavibhaṅga* の Naissargikā Pāyattikā 第十八条に属する可能性がより高い³⁰⁾ という判断を暫定的なものとして下さざるをえない。

4. 複数のフォリオが癒着している断簡においてA面とB面が異なるテキストに属するという梵文断簡はF 22.3 + G 14.4 + G 19.1以外にも³¹⁾ 存在するので、F 22.3 + G 14.4 + G 19.1も両面が異なるテキストに属する写本断簡である可能性がある。

1) 具体的な内容に関しては、生野2018を参照のこと。 2) 生野2015, 2016。 3) F 22.3, G 14.4, G 19.1という三つの断簡はそれぞれの断裂面が直接接合するのではないので、それらが同一のフォリオに属していると判断する根拠はテキストの内容のみである。
4) これらの断簡のローマ字転写を最初に行ったのは、Klaus Wille 博士（Göttigen）であ

る。 5) 梵文テキストにおいて使用する記号表記は次の通りである: [] は損傷した文字, () は欠損箇所での補い, < > は欠損していない箇所での補い, {} {} は写本そのものにおいて指示されている削除, .. は判読できない音節, . は判読できない音節の一部, + は欠損している音節, □ は当該フォリオに剥落が見られる箇所, *□ は筆者によって訂正された語句, ' は写本には書かれていない avagraha, /// はフォリオの破損, : は句読点, ○ は紐穴をあけるための空間を表わす。

6) 大正蔵2 (no. 99), 227a29-b25 ≈ 失訳『別訳雑阿含経』巻第七, 第122-123経 [大正蔵2 (no. 100), 420a28-b27]. Cf. SN 42.2-3 (IV 306.10-309.30).

7) (avo)cam alaṃ grāmaṇīs tiṣṭha m(ā tam arthaṃ pariprākṣid) 「私は言った:『村長よ, 十分だ, 止めなさい. そのことを問うな』」; cf. line 7. 8) d(i) rgharātṛam nivṛto vaṃcīto vipralabdh(a)h 「長い間ずっと覆い隠され, 欺かれ, たぶらかされた」; cf. 第908経:『長夜欺誑』(227a5).

9) m(a)dhye samājamadhye pūrvava(d yāvat) 「……の中で, 集まりの中で, 先の通りに乃至」.

10) t(e)n(a) k(a)rm(a)nā (ta)thā samāptena samādattena *prabhāsānām devān(ām sabhāgatāyām upapadyate) 「そのように遂行され受け取られたその行為の余力によって光り輝く神々の一員である状態に到る」; cf. line 10; 「以是業縁, 生歡喜天者」(227a26, cf. 227a7-8). 『別訳雑阿含経』第122経には「若以此業, 生光照天」(420b5-6) とある.

11) (a)h(a)m bho Gautamādyāgreṇa tasmāt pāpakāt karmaṇaḥ pra(t)i(viramāmi) 「ガウタマ君よ, 私は今日以後その悪い行為から離れる」.

12) (gr)āmaṇīr bhagavato bhāṣitam abhinandyaṇumodiyothāyāsa(nāt prākṛāntaḥ) 「村長は, 世尊の語ったことに喜び歓喜し, 座から立ち上がって去った」; cf. Enomoto 1994, nos. 592, 1064, 1147, etc.

13) (Rājagṛhe nid)ānam atha yuddhājīvo grāmaṇīr yena bhag(a)vāms te(nopasaṃkrāntaḥ) 「因縁はラージャグリハにおいて, それから戦で生計を立てる村長が世尊のところへ歩み寄った」. なお, 場面設定の省略形に関しては Chung Forthcoming, fol. 161r5, EĀ (Trip.) § 14.1, GilMs III 1.v.4, viii.4, x.12, etc. を参照のこと.

14) (upasaṃkramya bhagava) tā sārdaṃ saṃ(mukha)m (saṃmodanīm saṃraṇjanīm vividhām kathām vyatīsa) ryaikānte niṣaṇṇa ekāntaniṣaṇṇo yuddhājīvo grā(maṇīr bhagavantam idam avoca śrutaṃ) me bho gautama : pauraṇānam yuddhājī(vānām) 「歩み寄った後に, 世尊と向き合って歓喜しあい [互いに] 嬉しくなる様々な話を交わした後に一端に座った. 一端に座った戦で生計を立てる村長は, 世尊に次のことを言った. ガウタマ君よ, 私によって聞かれた, 戦で生計を立てる古の者たちの」; cf. Enomoto 1994, no. 1226.

15) (utsahate ghaṭa)t(e) vyāyacchate sa (tatrotsahamāno ghaṭamān)o vyāyacchamāṇaḥ parā(n ha)nti vyābādhati 「堪え, 励み, 努める. その者は, そこにおいて堪え, 励み, 努めている時に, 他の者 (敵) たちを打ち殺し害する」; cf. line 8; Melzer 2010, I, 52 (428 verso 1-2, 3).

16) kim āha al(a)m (grāmaṇīs tiṣṭha mā) tam arthaṃ pariprā(kṣ)ī(d e)vaṃ dvir api tṛ api 「『……何を言うか?』 『村長よ, 十分だ, 止めなさい. そのことを問うな』. 同様に二度も, 三度も」; cf. line 1.

17) (y)uddhājīvaḥ sannaddhaḥ 「戦で生計を立てる者が武装し……」.

18) am(i) satvā hanyantā(m) vā (ba)dhy(a)ntām vā parājīyantām vā anayena vyasanam āpady(antām) 「あれらの衆生たちが殺されよ, あるいは縛られよ, あるいは打ち負かされよ. [彼らが] 悪行により苦境へ陥れ」.

19) (mi)thyāpratipattin(i)dā(na)hetoh kāyasya bhedāc ch(ara)virāṇām devānām sabhāgatāyām upapadyate nedam (sthānam vidyate) 「悪しき振る舞いに結びついているので, 『身体破滅の後に矢の勇者たちの神々の一員である状態に到る』 [という] この理は見出されない」; cf. GilMs III 1.53.1, 2.182.2, etc.

20) 'Dul ba rnam par 'byed pa, Bam po 32 [P Je 129b7-131a3] ≈ 義淨訳『根本説一切有部毘奈耶』巻第二十一 [大正蔵23 (no. 1442), 740a20-b11].

21) 大正蔵2, 228b6-28 ≈ 失訳『別訳雑阿含経』巻第七, 第126経 [大正蔵2, 421b12-c5]. Cf. SN 42.10 (IV 325.14-327.3).

22) Cf. lines 7, 8. 23) P 130a8-b1 ≈ 『根本説一切有部毘奈耶』(740b2-4).

24) Cf. SBhV II 75.21-22 ≈ D Ña 162b6,

P Ce 155b 5–6, S Ña 220b2–3. 25) P 130b7–131a1 ≈ 『根本説一切有部毘奈耶』 (740b7–9). 26) しかし、『別訳雑阿含経』には「當於爾時阿難比丘侍立佛側，以扇扇佛」(421b28–29)とある。27) ただし、『雑阿含経』の原本が少しく異なっていた可能性や『雑阿含経』において訳出の際に略されている可能性もある [cf. §2と注26]。なお、漢訳の『根本説一切有部毘奈耶』は上述の論点の二つとも記述している [注23, 25]。28) ただし、同一部派のインド語テキストにおいて、パラレルである説話における文言がスートラとヴィナヤとの間でそもそも相違したのかどうかは、不確実である。パーリ文献においてB面の説話に対応するSN IV 325.17–327.3とVin II 296.27–297.31との間で文言の著しい相違は見られない。29) *Vinayavibhaṅga* と *Samyuktāgama* のフォーマットは非常に類似している [生野2018] ので、決定的な要素とはなりがたい。30) A面においても梵文断簡と『雑阿含経』の間で語句に関する異同は見られるので、B面が『雑阿含経』第911経に属する可能性を排除するものではない。31) 2627/1.3 (『雑阿含経』第482–483経と *Bhaiṣajyavastu*) と G 16.2 (*Āṅgama* の *Apannakasūtra* と *Bhaiṣajyavastu*)。

〈略号表〉

EĀ (Trip.)	C. Tripathi. <i>Ekottarāgama-Fragmente der Gilgit-Handschrift</i> . Reinbek: Verlag für Orientalistische Fachpublikationen, 1995 (StII, Monographie 2).
GilMs III	<i>Gilgit Manuscripts</i> . Ed. Nalinaksha Dutt. vol. 3, parts 1–4. Calcutta, Srinagar: Calcutta Oriental Press, 1947–1950.
SBhV	<i>The Gilgit Manuscript of the Saṅghabhedavastu</i> . Ed. R. Gnoli. Roma: Istituto italiano per il Medio ed Estremo Oriente, 1977–1978.
SN	<i>Samyutta-Nikāya</i> . Ed. L. Feer. 5 vols. London: Pali Text Society, 1884–1898.
Vin	<i>The Vinaya Piṭakam</i> . Ed. H. Oldenberg. 5 vols. London: Williams & Norgate, 1879–1883.

〈参考文献〉

- 生野昌範2018「アメリカ合衆国ヴァージニア州のプライベート・コレクションにおける新出サンスクリット語写本断簡集」『国際仏教学研究所紀要』1: 61–75.
- Chung, Jin-il. “A Sanskrit Fragment Corresponding to Sūtra 481 of the Za-ahan-jing.” *Hokkaido Journal of Indian Philosophy and Buddhism* 3 (Sorthcoming).
- Enomoto, Fumio. 1994. *A Comprehensive Study of the Chinese Samyuktāgama*. JSPS KAKENHI Grant Number 03610016.
- Melzer, Gudrun. 2010. *Ein Abschnitt aus dem Dīrghāgama*. Inaugural-Dissertation zur Erlangung des Doktorgrades der Philosophie an der Ludwig-Maximilians-Universität München (microfiche edition).

〈キーワード〉 梵文写本断簡, 根本説一切有部毘奈耶, 雑阿含経, 別訳雑阿含経
(国際仏教学大学院大学特任研究員, 博士 (文学))